

「土木の希望と担い手確保」

工事名 令和4年度 黄瀬川大岡護岸工事

地区名 三島地区

会社名 加和太建設株式会社

主執筆者 監理技術者 芹澤 和也

CPDS 番号 230269

### ① 工事概要

工事名 令和4年度 黄瀬川大岡護岸工事

発注者 国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所

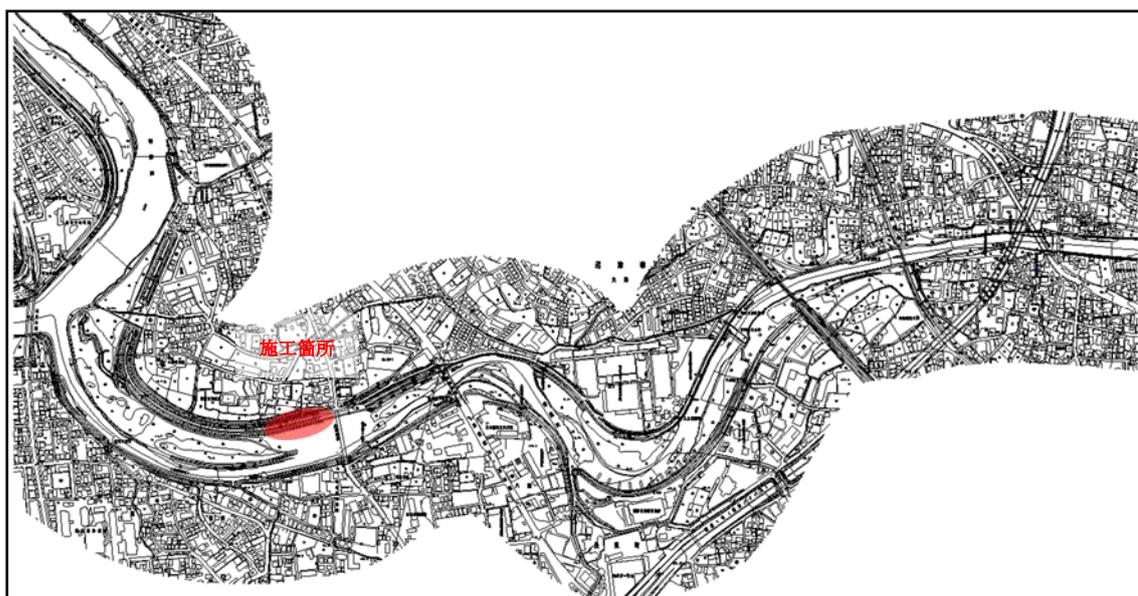
工事個所 静岡県 沼津市 大岡 地先

工期 令和4年5月26日～令和5年3月31日

工事概要 河川土工 1式、護岸基礎工 1式、法覆護岸工 1式、  
(平ブロック張 1,492m<sup>2</sup>、プレキャスト縦帯コンクリート 120m、小口止 1箇所)  
根固め工 1式、(根固めブロック工 1,631m<sup>2</sup>、間詰工 184m<sup>3</sup>)  
水制工 1式、構造物撤去工 1式、仮設工 1式

- ② はじめに 本工事は狩野川水系流域治水プロジェクトとして、いのちとくらしをまもる防災減災を目的とした国土強靱化対策工事であり、黄瀬川橋下流右岸における護岸工事である。

### 位置図



黄瀬川右岸 0.6kp 付近

### ③ 現場における問題点

#### ○建設業の状況

昨今の建設業は人手不足が深刻な問題となっている。これは専門職に限った話ではなく、施工管理における職種でも同じ事が言える。国土交通省においても働き方改革の推進や、「給与・休暇・希望」といった新3Kの取組を実施している。

#### ○現場における懸念点

現場運営においても人手不足問題は例外ではない。現場管理の職員不足による残業増大や休日出勤の増加が懸念され、働き方改革や新3Kに逆行しかねない。それは担い手確保の足かせにもなり負のループに陥ってしまう恐れがある。

### ④ 対応策・改善点と適用結果

#### ○当現場の主なPRポイント

- ・当現場では河川土工及び各工種作業土工において、受注者希望型によりICT施工へ協議変更した。
- ・黄瀬川という河川環境への配慮も必要な現場である。
- ・河川工事という事業そのものが、災害対策として地域住民から待望されるものである。

上記より、地域貢献の一環としてイベントを開催し、給与・休暇・希望の「希望」を伝える事で担い手確保を図る事とした。

#### ○“黄瀬川 放流イベント”を開催

##### 【対象者】

清水町立西小学校の児童(5年生)80名+教員4名

##### 【目的】

1. 土木の魅力を発信し、小学生の将来の夢の幅を広げる。
2. 地域の方々に河川工事の重要性について伝える。
3. 周辺河川(黄瀬川・狩野川)の環境保全について理解を深める。

##### 【参加協力】

- ・国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所
- ・清水町
- ・狩野川漁業協同組合

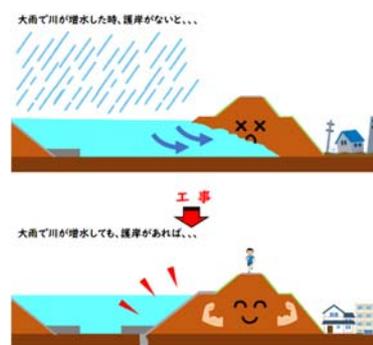
##### 【内容】

- 1) 工事概要を知り工事意義や河川整備の重要性を感じる
- 2) 過去に発生した災害を知り防災意識を高める(狩野川台風、黄瀬川大橋沈下)
- 3) 土木の魅力を知り将来の選択肢の一つに加える
- 4) 黄瀬川、狩野川に生息する生き物を知り、環境保全を意識する
- 5) 魚の稚魚を放流し、生まれ育った町の河川に愛着を持つ

## 【考察】

- 1) 土木工事は普段、騒音や振動、交通規制等により迷惑な存在になりがちであるが、工事概要の説明に加え、堤防の役割や護岸の仕組みを解説する事で、土木工事は町を守っているという事を意識付けする事ができた。

このように土木の仕事そのものの誇りを、小学生達が憧れを持つきっかけにしていく必要がある。



- 2) 小学5年生が学校で防災を学んでいる事から、過去事例による河川災害の恐ろしさを実感させ、自分たちが住んでいる地形が河川と共存していく事を印象付けた。

それにより堤防管理や護岸維持の必要性を感じ、①で前述した工事の重要性を認識する機会とした。



- 3) 国土交通省が掲げる新3Kの一つ、「希望」を伝える事で土木の未来に“カッコイイ”という印象を持ってもらう事を目的とした。

ICT施工は省人化を図る事に加え、女性も活躍する事や、衛星からの位置情報を取得する事で、「将来の土木は宇宙と繋がる」という話に目を輝かせる児童の姿も見ることができた。

その他、今後の土木として遠隔操作による無人化施工等も実験段階を迎えている。

その時代に先頭に立っているのは今の自分達だという事を意識させる良い機会となった。



- 4) 狩野川漁業協同組合長様より、狩野川や黄瀬川に生息する生き物をご紹介頂き、自然に触れ合う楽しさと、河川の環境保全がいかに大切かという事を学ぶ場を提供す

る事ができた。

- 5) 本企画のメインイベントである魚の稚魚の放流として、体長数センチという小さな「アマゴ」を放流した。生息物の育成環境の保全・復元を意識するために、座学も大切であるが、やはり身をもって体験する事が記憶に残る。“いくつになっても覚えている体験を”を副題として掲げたイベントでもあったため、目を輝かせ友人とはしゃぐ小学生達が印象に残った。



⑤ おわりに

本イベントにおいては、沼津河川国道事務所の副所長様、沼津河川出張所長様をはじめ、清水町長様や副町長様にも参加頂いた。建設業における担い手確保や子供達の育成が重要である事が伺える。子供達の成長や感性を豊かにする事も目的であるが、彼等・彼女等が大人になり職業を選択する際、生まれ育った町を守りたい・造りたいという感情が芽生え、土木の道を志す姿を期待する。